No. 1

# （行政視察・政務活動・議員研修）報告書

令和５年４月６日

白石市議会議長　小川　正人　殿

議員氏名　菊地　忠久

下記のとおり行いましたので報告いたします。

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 令和５年　３月　22 日（水）　～　３月　23 日（木） |
| 調査・研修先 | 衆議院第２議員会館 |
| 調査事項<br>（研修事項） | ◎不登校特例校について<br>◎国道４号の４車線化について |
| 対応者・講師等 | 文部科学省<br>総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課　時枝課長補佐<br>初等中等教育局児童生徒課生徒指導室　大野課長補佐<br>岡本氏・松田氏<br>国土交通省<br>道路局企画課道路経済調査室　野村課長補佐<br>北川氏 |
| 概　　要<br>① 背景・目的<br>② 内容・特色<br>③ 主な質疑<br>④ 考察<br>（感想、課題、政策提言等） | ◎不登校特例校について<br>・経緯<br>近年、全国的に不登校の児童生徒が増加しており、本市においても例外ではない。不登校特例校は、２０１７年施行の教育機会確保法で、国や自治体による設置が努力義務とされたが、令和５年４月現在、１０都道府県の２４校にとどまっている。国の「教育振興基本計画」では不登校特例校を、５年後までに全ての都道府県や政令指定都市に設置し、将来的には全国で 300 校設置することを目指すとしている。<br>白石市も令和５年４月より不登校特例校である小中一貫の白石南小・白石南中（通称『白石きぼう学園』）を開校することになっている。<br><br>・概要<br>不登校特例校はカリキュラムを柔軟に組むことができ、学習指導要領にとらわれず一般の学校より授業時間を減らすなど、授業時間や学習内容を子どもの事情に配慮して学びやすい工夫をすることができる。フリースクールと異なり、元の学校から転校でき、通常と同じ卒業資格を得られる。 |

白石市議会
-5.4.-6

リットがある。

・事業内容及び特色

白石きぼう学園は「学校らしくない学校」をコンセプトに、「落ち着いて過ごせる居場所」「認めてもらうことを実感できる体験活動」「個別最適な学びで意欲と自信を持てるようにする」ことを重点項目としている。

個々の「学び残し」や「つまづき」について重点的に指導を行う「白石タイム」や自らの得意や興味・関心に基づいて課題を設定し、探究的に学ぶ「夢スタジオ」を教科として新設し、学習に関する不安を取り除くとともに、社会性の育成・向上を目指している。

◎国道４号の４車線化について

・経緯

かつて、本市及び周辺自治体の国道４号は２車線区間も多く渋滞が頻発していたが、2000年台に入ってから、大河原町や蔵王町の国道４号の４車線化の整備が進められ、交通の流れがスムーズになった。

しかしながら本市の国道４号は大平森合以南から福島県境まで一部の付加車線を除き２車線となっており、悪天候や事故等で東北自動車道が通行止めとなった時など大渋滞となっている。

・概要

国土交通省東北地方整備局は本市大平森合から斎川まで４車線化に向けた「計画段階評価」の手続きを進めており、令和５年２月に第１回の小委員会が開催された。様々な地域の概況や道路交通・地域の状況と課題等を総合的に勘案して、事業化を目指して調査が進められている。

・事業内容及び特色

対象区間は大平森合から斎川までの約３㎞。現状２車線の課題とその原因を調査し、その解決に向けて政策目標の設定が必要。具体的には、代替道路としての機能向上、交通安全の確保、物流・地域産業を支える幹線道路の強化、安定した救急搬送ルートの確保について調査を進める。

◎考察

不登校特例校について、全国的に整備が進まない理由について、まだ認知度が不足していることや、住民の意識としてネガティブなイメージが存

| | |
|---|---|
| | 在していることが挙げられるという。しかしながら、文部科学省が実施したアンケート調査によると300を超える自治体が設置を検討中であり、国としても現在設置している自治体と知見を共有して、全国的に展開したいとのこと。設置に向けた財政的な補助はあるが、今ある不登校特例校に対する財政的な補助はない。本市は旧南中学校という新しい施設があり、うまく活用できたが、そうでない自治体、特に本市のような小規模な自治体にとって整備のハードルは高いと思う。自治体間で協定等を結び、近隣自治体から通えるようにするなどの対応が必要ではないか。その他にも多くの課題はあるが、白石きぼう学園は注目度も高いので、最適解を模索しながらしっかりと運営いただきたい。そのためにも、これまで以上の本市と県や国との連携・情報の共有が必要と考える。<br>国道4号の4車線化について、計画段階調査を行うということは、国が「事業化に向けて調査します」と宣言したという意味であるとのこと。そして、事業化するためには全国的に見ても課題があると認められなければならず、どういった機能を持たせるか（バイパス・拡幅・立体化等）、どういった整備効果が得られるかしっかり示さなければならないとのこと。そして、事業化に向けスムーズに運ぶために調査の段階から公表して、丁寧なプロセスを踏むとのこと。<br>県内において白石ICと国見IC間が最も多く通行止めが起きている区間だという。そして、一旦通行止めになると白石市内の国道4号は大渋滞となる。安定的にヒトとモノが流れるためにもダブルネットワークの構築は必要である。さらに、（仮称）白石中央スマートインターチェンジと周辺施設が完成すれば、ますます国道4号の重要度が増すことは明らかである。計画段階評価の第1回の小委員会ではストップのかかるような議論はおきていないそうである。是非とも早期事業化につなげていただきたいし、白石市議会としても最大限の協力をしなければならない。<br>今回4年ぶりの会派研修となった。本市の課題について国の担当者と直接説明を受け、意見交換でき非常に有意義な研修となった。本市の市政課題は山積している。今回の研修を少しでも市政課題の解決に結びつけられるように尽力してまいりたい。 |